第２回　社会教育委員会議　議事概要

１　議事

⑴　報告事項

野外教育総合推進事業について

⑵　協議事項

子どもの体験活動の推進について

⑶　その他

２　日時

令和５年(2023 年)11 月 21 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

３　場所

ＳＴＶ北２条ビル６階　教育委員会Ａ・Ｂ会議室

４　出席者

⑴　委員（出席 10 名）

出口委員、片岡委員、小田島委員、小野寺委員、中野委員、
松岡委員、今泉委員、安田委員、臼井委員、榊委員

⑵　事務局（６名）

木村生涯学習部長、大瀬生涯学習推進課長、
田村野外教育担当係長、国奥職員、三井職員、中原職員

５　開催形態

公開（マスコミ関係者１名傍聴：北海道通信社１名）

６　会議内容

配布資料　　資料１：野外教育総合推進事業
　　資料２：協議資料

⑴　報告事項

①　野外教育総合推進事業

事務局から、資料１「野外教育総合推進事業」を用いて来年度から実施

予定の野外教育総合推進事業の概要について説明

②　主な質疑応答

・自然体験活動リーダー養成事業は全５回以上とのことだが、これは５日間という意味なのか、１泊２日などの泊を伴うものを５回以上行うということなのか？（出口委員）

→詳細は確定していないが、参加者にはまず自然に親しむ段階から実際に子どもたちに提供するプログラムを自分たちで計画・実践するまでを講座の中で行うことを想定している。（田村係長）

・具体的な日程などもこれから検討していくということか？（出口委員）

→おっしゃる通り。日程等の具体的な計画もこれから詰めていく段階。（田村係長）

・講座の内容を段階的に進めていくとなると専門家の意見も聞いていく必要があると思うが、そのあたりも連携先と協議のうえ進めていくという理解でよろしいか？

→事業構築にあたっては専門家の意見も踏まえて作っていく必要があると考えている。なお、業務の委託先はプロポーザルで選定し、委託先と調整しながら進めていく想定。（田村係長）

・ということは企画を公募して、良いプログラムを提案してきたところにお願いしていくという形か？（出口委員）

→おっしゃる通り。（田村係長）

・受けてくれるところがあるのかが気になるがそのあたりは大丈夫そうか？（出口委員）

→業者が受けやすいようにこちらとしても内容等調整していきたいと考えている。（田村係長）

・これは来年度からスタートするということでよろしいか？（出口委員）

→おっしゃる通り来年度からの実施を想定している。（田村係長）

・チャレンジ自然体験では、今のところ泊を伴うものは考えていないのか？（松岡委員）

→将来的に宿泊を実施する可能性もゼロではないが、来年度はまだ想定していない。（田村係長）

・できるところからスタートしていくということでよろしいか？（松岡委員）

→おっしゃる通り。（田村係長）

・子ども会の行事（ジュニアリーダー養成など）と日程が被るというようなことはないのか？（松岡委員）

→チャレンジ自然体験については、教育課程のなかでの実施を想定している。子ども会の活動は休日が多い認識のため、日程が被ることはない

と思われる。（田村係長）

⑶　協議事項

第１回会議にて承認された今年度の協議テーマ（子どもの体験活動の推進）に関して、第２回では「体験活動の充実を図ること」について熟議を行った。

①　１班（出口委員、小田島委員、小野寺委員、臼井委員、安田委員）

ア　主なアイデア（一部抜粋）

●学校でできること

・総合的な学習の時間における体験活動の実施。

・学校施設の開放。

・地域活動等の情報発信。

・なるべく制約をしないで子どもたちが「面白がる」空気を大切にすること。

●家庭でできること

・体験の入口として家族単位の登山やキャンプなど。

・子ども食堂での料理体験を家庭で実践すること。

・家庭菜園。

・買い物から料理までの一連の生活体験を子ども自身で行うこと。

●地域でできること

・子どもたちがイベントを企画実施できるような活動。

・お年寄りによる伝承遊び。

・地域人材とのつながり（結びつき）を強めること。

・子ども同士の学習の場づくり（相談室の設置等）。

・地域で活動する人達のネットワーク構築（情報共有の場づくり）。

・地域主催の農業体験。

・子どもたちが参加・企画する町内会のイベント。

・子どもの意見を聞く機会。

・大人が自分の仕事を子どもに対して楽しく語る機会。

イ　上記のアイデアの実現にあたって必要な視点及び具体策

・異学年・異年齢や初めて会う人たちとの交流

→地域の学校や公民館、児童会館、空き家などを活用して、子どもや地域の人が集まって色々な体験活動ができる居場所をつくる。

・子どもが体験活動に参加するかどうかは親の関心度も関わってくることから、親への意識づけをどのように行うのか

→体験活動のメニューとして食の要素を取り入れ親の関心を引く。

②　２班（片岡委員、松岡委員、榊委員、今泉委員、中野委員）

ア　主なアイデア（一部抜粋）

●理念
・意図的、計画的に体験活動を組むこと。
・成功体験、失敗体験の積み重ね。
●経済対策
・経済的な事情で活動に参加できない人への費用の補助。
・家庭の事情（一人親、休みが取れないなど）で活動に参加できない人向けのプログラムの開発。
●人材育成
・民間企業やクラブチームとの連携。
・高校生や大学生の活用。
・子どもを活動に参加させるために親や地域の人への働きかけ。
・教育に関心のある企業と子どもたちとのマッチング。
・活動に参加しやすい層の親へのアプローチする仕組み。
・体験活動を実践している人たちの見える化。
・CS をきっかけとした学校区と地域の繋がりづくり。
・児童会館やミニ児に配置された子どもコーディネーターを通じた地域人材と子どもの繋がりづくり。
・ジュニアリーダーとの連携。
・地域をよく知る外郭団体との連携。
●活動例
・仲間づくりの視点をもったプログラム。
・SNS などを活用した情報発信。
・学校における縦割りの活動。
・親子体験。

イ　上記のアイデアの実現にあたって必要な視点、具体策
・成功体験、失敗体験の積み重ねの中でどのように体験していくのか、その後に何が得られるのかを意識すること
→児童会館等の活用や著名人を招いた魅力あるプログラム。
・プログラムの実施に必要な費用のみならず、経済的な事情を抱えた家庭への財政的な支援
・プログラムの実施を一過性のものではなく、持続可能なものにしていくためには人材育成が大切（地域づくりにも繋がること）
→おやじの会や PTA、学生の活用。

⑷　その他

次回の会議は、1 月 17 日（水）に開催予定である。詳細については、後日事務局から連絡する。